

【達成状況に関する評価基準】※運営に関する計画の評価基準と同じ
A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【別紙1－加算配付用】

令和元年度 校長経営戦略支援予算【加算配付】実施報告書(選定校記載用)

(校園コード)

※校園コードを入力してください。

学校名

※学校名は校園コードを入力すると自動で表記されます。

取組に対する評価状況

学校関係者による評価実施済

1 配付額 円 → 決算額 円

2 自校の現状・課題(※小・中学校においては、学力課題に限定)

児童の基礎学力の確実な定着、「わかりやすい授業」、教員の指導力向上に向けて、研究教科を「算数」と定め、主体的・対話的で深い学びをする児童の育成をめざし、校内研究に取り組んでいる。また、昨年度まで2年間を通して、児童の基礎学力の定着につながる読書力向上に向けて、学校図書館の整備と読書活動の充実に努めてきた。学校図書館の蔵書の分類、整理等がすすみ、児童のよりよい読書習慣が定着したが、小学校学力経年調査の標準化得点において、すべての学年が大阪市平均を下回っており、児童の基礎学力の定着につながったとは言えない。依然として、家庭学習習慣や自主学習習慣など、自ら進んで意欲的に学習することに課題があると考える。

今年度は、授業において、ICT機器(タブレット・電子黒板等)の積極的な活用に努める。画像・映像等による児童の視覚的認知をすすめる、また、児童間での学び合い等を通して、児童の学習意欲を高め、学力向上を図りたい。

3 年度目標(※小・中学校においては、学力向上の目標を記載すること)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標(小・中学校)

・平成31年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

・平成31年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。

学校園の年度目標

・平成31年度の学校児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」の質問に肯定的回答をする児童の割合を75%以上にする。

目標に対する達成状況(取組完了時)

・平成31年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

平成30年度3年：97.2 令和元年度4年：97.8 : 目標を上回って達成した

平成30年度4年：98.9 令和元年度5年：103.2 : 目標を上回って達成した

平成30年度5年：98.9 令和元年度6年：102.4 : 目標を上回って達成した

・平成31年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。

平成30年度：63.7% 令和元年度：63.0% : 取り組んだが目標を達成することができなかった

・平成31年度「児童アンケート」における「授業はわかりやすい」の質問に肯定的回答をする児童の割合を75%以上にする。

1学期末：84.7% 2学期末：86.6% : 目標を上回って達成した

達成

4 年度目標達成に向けた取組内容(予算反映するもののみ記載)

取組内容【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

- ・ICT機器を活用し、すべての児童の「わかる・できた」をめざした授業づくりに努める。
- ・少人数授業(TT・習熟度)等の指導法の研究や指導力の向上に取り組む。

5 年度目標に応じた事業効果を測る指標(期待する効果等)

取組内容【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】指標

- ・各学級、学習室等で、ICT機器(タブレット・電子黒板等)を活用した学習活動等を毎月2回以上実施する

- ・教員の公開授業を年間15回以上実施する。
- ・教育指導員等を指導要請し、研究授業（年3回）・研究協議を実施する。

指標に対する達成状況(取組完了時)

- ・校長経営戦略支援予算【加算配付】で購入した書画カメラの活用をはじめ、ICT機器（電子黒板、タブレット等）を活用し、「わかりやすい授業」づくりに努めた。
- ・校内研修計画に基づき、研究授業・公開授業等（26回）を実施した。
- ・大阪市教育センター・大阪市小学校研究会区内研究理事等に指導要請した研究授業・研究協議（4回）を実施した。

達成

B

※事業効果は必ず数値目標を設定のうえ、進捗状況を測ることができる内容としてください。

6 年間スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組み	購入時期		ICT機器の活用・研究授業・研究協議の実施						
効果検証	■ ↑	1学期児童アンケート			小学校学力経年調査		■ ↑	■ ↑	2学期児童アンケート 調査結果分析

【裏面に続く⇒】

取組

1

(校 園 コー ド 751726)
学 校 名 加美南部小学校

7. 取組内容・予算内訳

(1)取組内容【施策番号 施策名】 取組内容【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 ・ I C T 機器を活用し、すべての児童の「わかる・できた」をめざした授業づくり に努める。 ・ 少人数授業 (T T ・ 習熟度) 等の指導法の研究や指導力の向上に取り組む。	委員会使用欄	達成
		B
予算内訳 11-1 簡易実物投影機 @47,500円×4 190,000円 11-1 顕微鏡アダプタ @ 5,000円×2 10,000円 合計200,000円		
期待される効果 授業において、I C T 機器 (簡易実物投影機等) の積極的な活用にも努め、画像・映像等による児童の 視覚的認知を高めることで、児童の学習意欲や学力の向上につなげる。		

(2) 取組内容に対する実施スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組み	購入時期		I C T 機器の活用・研究授業・研究協議の実施						
効果検証	<div> <div></div> <div>↑</div> </div> 1学期児童アンケート	小学校学力経年調査				<div> <div></div> <div>↑</div> </div> 2学期児童アンケート	<div> <div></div> <div>↑</div> </div> 調査結果分析		

(3) 取組内容に対する中間報告

- ☒ スケジュールどおり実施できている。
☐ スケジュールにやや遅れがあるが、取組は予定どおり実施できる見込みである。
☐ スケジュールに大幅な遅れが出ている。(□他責・□自責)
 [大幅な遅れがある場合]理由及び対処方法(年度末到達目標の修正など)

(4) 取組内容に対する決算内訳

決算内訳			
11-1 簡易実物投影機	@47,500円×4	190,000円	
11-1 顕微鏡アダプタ	@ 5,000円×2	10,000円	合計200,000円

※取組内容はPDCAサイクルを意識して設定してください。委員会使用欄は空欄としてください。